「盗む者から施す者へ」エペソ４：２８　　１７・２・１２

Ⅰ　先行する恵み。神は主を信じる私達に恵み深い赦しだけではなく、新しい心、真実、誠実な心、与える愛の心を下さる。

Ⅱ　「盗みをしている者は、もう盗んではいけません」。罪の性質。

１．私達の心の隠れた部分には、貪欲、欲張り、むさぼり、他人のものを欲しがる心がある「盗んではならない。…あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻…牛、ろば、すべて隣人のものを、欲しがってはならない。出エジプト記２０：１５、１７。殺し、姦淫、偽証、盗みとは、隣人の持ちものの領域を侵す事です。カンニングも＝人の答えを盗む事。※新しく変えられた証し。神が、させて下さった恵み。

２．色々な盗みがあります。強盗、与かったお金の不正な使い方、返さない、ごまかし、流用等。お金の誘惑に強い人はいません。自分は大丈夫と思っても！※神が変えて下さった恵みの証し。お金を正しく管理できるように、すべてを見、知っておられる神を意識する事は素晴らしい事です。祈りつつ歩みましょう。神は正しい方法で必要を満たして下さる。

３．他人の物を返していない事にも注意しましょう。忘れたままの場合も。人にも神にも。「人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだでしょうか。』それは、十分の一と奉納物（神の恵みに感謝しての十分の一以外の礼拝献金、感謝献金、指定献金）によってである。…あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。…十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。…わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかためしてみよ」マラキ３：８－１０。実は私達に与えられている十分の十、すべては神からの恵みであり神のものである。その中で十分一を奉げるのは、すべては、神の恵みである事を忘れない為。その中で特に神が与えられたものの十分の一は神のもの。ささげる、お返しするべきか迷うものではなく、もともと神のものです。ですから十分の一を神に奉げる。神の物を神にお返しします。神の約束、励ましの御言葉を忘れてはならない。→「わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福を注ぐ」３：１０。

Ⅲ　新しい生き方。

１．労働について。①労働は人間の堕落前から、神が与えられた大切なもの。「神である主は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた」創世記２：１５。労働は、本来は、神が造られた全世界を正しく管理する努め、使命。神の管理への参与。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地を這うすべてのものを支配（神の御心に添って管理）するように」創世記 1:２６。②労働は、自らの生活の必要を得る為。「ほねおって働きなさい」エペソ４：２８。「落ち着いた生活をすることを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。…乏しいことがな

いようにするためです」Ⅰテサロニケ４：１１，１２。また、神から与えられた能力を用いる労働は、私達を成長させる。と同時に、度を越して体を壊さないように識別して祈りたい。③労働は互いに支え合うもの。神は人を互いに支え合うように造られた。もし私達が、自分一人で自分の生活に必要なすべてを作り出さなければならないとしたら？ごはん一粒からつくれる？土作りから？水は？蒔く種はどこに？太陽は？自分で水田作り・苗床・草取り・稲刈り・脱穀・機械は？精米・火・電気は？味噌汁？味噌は？パンは？麦作りから？さあ、共存でなく、もし一人なら、いつになったら食べられる？このように食生活も、勉学も、医療も、交通機関も、霊的な養いもすべて、一人でできる人はなく、神の創造と配慮の中で、神が与えられる互いの労働のかげで生活できている。互いに互いを必要としている。自分一人の力？自分の国だけの力と思い上がってはならない。自分と自分の国さえよければではなく、協力、共存が神の御心！③「困っている人に施しをするために、自分の手（神からいただいた手）をもって正しい（神から正しい仕事に導かれるように祈り続けよう）仕事をし、ほねおって働きなさい」エペソ４：２８。

２.「困っている（困窮、必要を持っている）人に」→真実な施しには、真実な識別力のある愛が必要。むやみに施すのではなく、真に困っている、助けを必要としている人に。真の識別力のない施しにより、かえって怠惰となり、依存的になり過ぎ「自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働く」事をしなくなる事のないように。真に困っている人への真実な施しは、その人を真に助ける。神は、それをご覧になり報いて下さる。「隠れた所で見ておられるあなたがたの父が、あなたに報いてくださいます」マタイ６：４。「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」２５：４０。

２．真の施しが出来る人は？余裕のある人？「マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵み（常に神の恵みが先行している）を、あなたがたに知らせたいと思います。苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜び（神の恵みへの感謝の喜び）は、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです」Ⅱコリント８：１，２。真の施しが出来る人とは、苦しみ、試練、貧しさの中にあっても、神の御子を惜しまず与えられた大きな愛、キリストによる救いの驚くべき恵みを心から感謝し喜んでいる人。

３．すべてのものの与え主への感謝、このお方に祈り求める事を忘れてはならない。自分の手で仕事をしても、収入を得ても、その働く能力、体、命を与えて、支えておられるのは神である。「すべてはあなたから出たものであり、私たちは、御手から与えられたものをあなたにささげたにすぎません」Ⅰ歴代２９：１４。与えられた状況に頼るのではなく、一日一日、与え主に祈り、拠り頼む事が大切。「私たちに日ごとの糧をきょうもお与えください」マタイ６：１１。個人的な必要の為にも、教会の必要の為にも、すべての創造者、支配者、与え主、すべてを見ておられ、すべてをご存知の神に祈り求め続けよう！